

令和元年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 日 時 令和元年9月19日（木）
午後1時30分～午後3時35分
- 2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 2階 研修室
- 3 出席委員 （9人）

座 長	上之園 公 子	〔学〕
委 員	中 村 順 子	〔産〕
委 員	桑 原 強	〔官〕
委 員	平 野 茂	〔金〕
委 員	原 田 悟	〔労〕
委 員	藤 川 真 治	〔言〕
委 員	堀 部 明 美	〔住〕
委 員	松 本 真奈美	〔住〕
委 員	森 岡 小津恵	〔住〕
- 4 欠席委員 （0人）
- 5 議事次第
 - 1) 開会
 - 2) あいさつ
 - 3) 委員紹介
 - 4) 総合戦略の平成30年度末時点の検証及び次期総合戦略の策定について
 - 5) 閉会
- 6 町出席者

町 長	佐 藤 信 治
副 町 長	末 平 顕 雄
教 育 長	高 杉 良 知
（関係部長）	
町民生活部長	金 光 一 隆
福祉保健部長	山 西 仁 子
建設部次長	川 口 正 幸
教育部長	榎 並 隆 浩

(事務局)	総務企画部長	戸田 秀 生
	総務企画部次長	谷 口 充 寿
	政策企画課主幹	大 神 規 正
	政策企画課企画調整係長	西 山 晋
	政策企画課企画調整係	浅 田 俊 祐

7 傍聴者数 8人

8 議事の内容

(午後1時30分開会)

1) 開会

○総務企画部長

皆さんこんにちは。

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので「府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開会いたします。

私は総務企画部長の戸田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は9名の委員にご出席いただいております。

まず、本日の会議の趣旨でございますが、本日は、平成30年度末時点の検証結果をご報告させていただくほか、当町の総合戦略は今年度が最終年度となっておりますことから、次期総合戦略の策定を含めた今後の方針案についてもご説明させていただき、幅広いご意見をいただきたいと思いますと思っております。

なお、議事の進行につきましては、「府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第5条でございますように、委員の中から座長を選出していただき、座長に議事を進めていただくようにしておりますが、本日は、まだ座長が決まっておりませんので、座長選出までを事務局で進めさせていただき、そこからの議事につきましては座長にお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2) あいさつ

○総務企画部長

それでは、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。まず初めに、開会にあたり、佐藤町長よりご挨拶を申し上げます。

○町長

皆さんこんにちは。

令和元年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。

本会議は、人口減少対策や東京一極集中是正などを進めるための府中町版の総合戦略策定に際し、産・官・学・金・労・言の各分野の関係者や、住民の代表など、様々な分野でご活躍されている委員の皆様からご意見・ご提言をいただくために設置いたしました。

委員の皆様には、非常にご多用なスケジュールの中、委員への就任をお引き受けいただきましたことにつきまして、心から感謝申し上げます。

なお、本来ですと、辞令書を直接手渡しで交付すべきところですが、委嘱日から本日の会議まで日数を要したことから、郵送にて送付させていただきました。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

さて、国ではこの6月に、まち・ひと・しごと創生基本方針2019が閣議決定され、我が国における将来の人口減少・高齢化が依然として深刻な状況であることや、人口移動の面で依然として東京一極集中の傾向に歯止めがかからない状況であるといった現状認識のもと、各分野の施策を推進するとともに、2020年度からの第2期総合戦略の策定に向けた検討を行うとされたところです。

府中町の地方版総合戦略は人口5万人維持のため、出生率回復と子育て世代の転入増の2つの基本目標や、それに関係した重要業績評価指標を設定し、関係施策を推進することで目標を達成しようとするものであり、日々努力しているところでございます。

この後、担当から平成30年度末の検証結果などをご報告させていただき、委員の皆様から貴重なご意見やアイデア等を頂きたいと考えております。

また、現在の府中町の地方版総合戦略が今年度末までの期間となっていることから、次期総合戦略の策定に向けた今後の対応方針についても、ご説明をさせていただきたいと考えております。

府中町では今後とも子育て世代が居住を選択するまちを目指して参りたいと考えておりますので、是非とも忌憚の無いご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

3) 委員紹介

○総務企画部長

続きまして、委員の紹介をさせていただきます。

すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、7月に委員の改選があり、本日がこのメンバーでの初めての会議でございますので、委員名簿の順に紹介させていただきます。一言、簡単に自己紹介をお願いいたします。

○中村委員

府中町商工会で副会長をしております中村です。これまで府中中学校と緑ヶ丘中学校で約30年間学校教育に携わってまいりました。よろしくお願い

します。

○桑原委員

県庁地域力創造課の桑原です。市町への支援・連携をベースに県政を発展させるため、日々県内各市町に出向いております。府中町は子育て県内ナンバーワンを目指して積極的に取り組んでいることもあり、様々な意見を出していきたいと思います。よろしくお願いします。

○上之園委員

比治山大学の上之園です。大学では教員養成系で、保育士や幼稚園・小学校の教員養成に携わっています。私自身も府中町の住民ですので、その目線からも意見を出せたらと思います。よろしくお願いします。

○平野委員

広島銀行安芸府中支店の平野です。昨年の10月1日付で着任し、前回の会議は傍聴席で拝聴していました。府中町は非常に活気のある町ということで、金融の立場としてこの会議で色々な知見を頂き、できる限りやっていきたいと思います。よろしくお願いします。

○原田委員

連合広島地協で議長を務めております原田です。出身はマツダ労働組合で、書記長をしております。労使の使う側・使われる側で何ができるかということとを皆さんと一緒に協議し、府中町のために何ができるかを考えて取り組んでいきたいと考えております。よろしくお願いします。

○藤川委員

広島テレビ放送株式会社の藤川です。担当として子育て関連のキャンペーンを行っており、その一環として予防接種や感染症の啓発活動を担当しております。報道記者の経験もありますので、そういう立場からでもできることを考えながら務めたいと思います。よろしくお願いします。

○堀部委員

堀部と申します。府中町でずっと生まれ育ちました。3月まで府中町職員として働いており、以前は保育士をしていました。現在は児童センターハッピーズにて子育てに関する色々な事業をしています。皆さんと一緒にご意見を出していくほか、私自信も色々吸収できればと思います。よろしくお願いします。

○松本委員

民生主任児童委員の松本です。私も府中町で育ちまして、子ども3人も府中町におります。これまでPTAの会長を小学校・中学校とさせていただき、府中町に育って良かったと実感していますので、その良さを皆さんと検討し、より良い府中町にしていければと思います。よろしくお願いします。

○森岡委員

府中町内で子育てサークルわっぷるを展開しています森岡です。子育てサ

一クルわっふるでは、主に未就園の親子を対象に来て頂いています。私自身、5歳と3歳の娘を子育てしている最中であり、府中町の子育て世代の転入の目標について、現役世代として意見を発信していきたいと思います。よろしくお願いします。

○総務企画部長

ありがとうございました。続きまして、町側の出席者の紹介をさせていただきます。佐藤町長です。

○町長

よろしくお願いいたします。

○総務企画部長

末平副町長です。

○副町長

よろしくお願いいたします。

○総務企画部長

高杉教育長です。

○教育長

よろしくお願いいたします。

○総務企画部長

なお、今回の会議では、次期総合戦略の策定に向けたご説明がございますことから、各施策に関連する部長が出席しております。

出席の部長につきましては、こちらに着席しておりますので、紹介をさせていただきます。金光町民生活部長です。

○町民生活部長

金光です。よろしくお願いします。

○総務企画部長

山西福祉保健部長です。

○福祉保健部長

山西です。よろしくお願いします。

○総務企画部長

建設部長が所用につき欠席のため、代理の川口建設部次長です。

○建設部次長

川口です。よろしくお願いします。

○総務企画部長

榎並教育部長です。

○教育部長

榎並です。よろしくお願いします。

○総務企画部長

最後に、事務局の紹介をさせていただきます。

○総務企画部次長

総務企画部次長兼政策企画課長の谷口です。よろしくお願いいたします。

○政策企画課主幹

政策企画課主幹の大神です。よろしくお願いいたします。

○政策企画課企画調整係長

政策企画課の西山です。よろしくお願いいたします。

○政策企画課企画調整係

政策企画課の浅田です。よろしくお願いいたします。

○総務企画部長

事務局の紹介は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、座長の選出にまいります。座長は委員の中から選出をお願いしたいと思いますが、どなたかご意見がございましたらお願いいたします。

○堀部委員

学識経験者であり、府中町の施策にも関わっておられる比治山大学の上之園教授にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○総務企画部長

ありがとうございます。他にございませんか。

ただいま、上之園委員を座長に推薦する提案がございましたが、よろしいでしょうか。

(委員からの異議なし)

それでは、上之園委員に座長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座長が選出されましたので、ここからは、座長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○座長（上之園委員）

改めまして、座長にご指名を頂きました比治山大学の上之園でございます。

それぞれの分野でご活躍されておられる皆さんから忌憚のないご意見をお聞きできるよう、円滑な議事進行に努めて参りますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

4) 総合戦略の平成30年度末時点の検証及び次期総合戦略の策定について

○座長（上之園委員）

それでは議事進行に沿って、「総合戦略の平成30年度末時点の検証及び次期総合戦略の策定について」からスタートしてよろしいでしょうか。

それでは事務局からお願いします。

○総務企画部次長

総務企画部次長兼政策企画課長の谷口です。

新しくご就任いただいた委員の方もおられますので、少しだけ府中町の総

合戦略についてご説明させていただくとともに、本日の会議の目的を再度確認させていただきます。

まず、総合戦略の位置づけでございます。本編の2ページの(1)の一番下になりますが、総合戦略は「人口減少の課題克服に向けた府中町の施策展開の戦略を示すもの」でございます。

その下の(2)対象期間でございますが、平成27年から令和元年度の5年間としております。

それから、一番下から2行目、本日の会議の目的でもありますが、(4)進捗の検証として、「外部有識者等を含めた検証体制を設けて成果の進捗を検証する」というところが、本日の会議ということでございます。

続いて、次の3ページ、基本的な考え方でございます。

府中町の人口は、ここ数年微増を続けておりますが、当初策定した人口ビジョンでは、何の対策も講じなければ2060年には4万人を割ると予想されておりました。

これを、出生率回復と子育て世代の転入増により、中長期的に5万人の人口を維持するというのが、総合戦略の大きな目標でございます。これが、3ページの上側の下線部分のところでございます。

この目標の達成を目指し、出生率回復と子育て世代の転入増を実現するため、府中町では「子育て世代が居住を選択するまち」を目指すというのが、総合戦略の基本的な考え方でございます。

次に4ページでございますが、5万人の人口を維持するために、「子育て世代が居住を選択するまち」を目指す取り組みの評価指標として、2つの基本目標を設定しています。

まず、1つ目が国の長期ビジョンより10年早いペースでの出生率の回復ということで、子育て世代女性100人あたりの0歳児数を8.72人から9.23人に上げること。そして、2つ目が子育て世代の転入出差を年間+30世帯ということで、20～39歳女性が前年の19～38歳女性比で59人増にもっていくこと、この2つを総合戦略の基本目標としております。

次に、5ページでございます。具体的な施策としては、まず、基本的方向として、(1)広島都市圏で一番の子育て支援、(2)子ども連れ家族の生活利便の向上、(3)子どもに伝える地域の魅力の向上、この3つを基本的方向として、6ページから、具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)を記載しております。

ここでは、16の施策と12のKPIを掲げておりますが、これらを体系的に要約したのが、A4横の1枚ものの「概要版」になります。

以上ご説明しました2つの基本目標と12のKPIにつきましては、毎年度末時点での検証を行っておりますので、今回の会議では平成30年度末時点の検証結果についてご報告させていただきます。

それでは、担当から資料のご説明を行います。

○政策企画課企画調整係長

政策企画課の西山です。

お手元の資料1から4に沿ってご説明をさせていただきます。まず説明の流れについてご説明します。

初めに、資料の1と2により、平成30年度の状況についてご報告します。

資料1は、総合戦略に掲げた基本目標やKPIの平成30年度末時点の検証結果をまとめたものでございます。また、資料2につきましては、人口移動に関連して、平成30年の府中町の転入・転出数の推移を取りまとめたものになります。

次に、今年度が最終年度になっております総合戦略の今後の方針についてご説明します。こちらでは、資料3「次期総合戦略の策定」により、策定等の方針や今後のスケジュールについてご説明するとともに、資料4「将来推計人口の状況」により、人口ビジョンの基となる、府中町の将来推計人口の状況についてご説明します。

委員の皆様におかれましては、説明の後に、全体を通してのご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、「府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成30年度末時点の検証結果」について、ご報告させていただきます。資料1をご覧ください。

府中町の総合戦略では、人口5万人の維持を目指し、出生率回復と子育て世代の転入出差プラスという2つの基本目標を設定しています。そして、その2つの基本目標を達成するための施策と、12項目のKPIを掲げています。

それでは、まず、基本目標の達成状況です。1ページの中ほど、基本目標のところをご覧ください。

まず、①の出生率回復については、子育て世代女性100人あたりの0歳児数は8.36人となり、中間目標である9.128人に届かず未達成となりました。一方、次の②の子育て世代の転入出差プラスにつきましては、目標の59人増に対して、29人増に留まり、同様に未達成となりました。

資料を1枚めくっていただき、2ページ、右上に資料1-1とあるページをお開きください。

子育て支援分野との記載がある上側の表が、出生率のこれまでの推移です。一昨年度までは20～39歳女性人口が徐々に減少する一方で、0歳児数は増加を続け、中間目標値を達成していましたが、昨年度は0歳児数が一転して減少したことにより、戦略策定当初の値を下回るまで低下しています。

また、下側の表が、子育て世代の転入出差のこれまでの推移です。転入が転出を上回る社会増の状態は継続しているものの、59人増の目標には届か

ず、4年連続で未達成となりました。出生数につきましては、全国的に見ても減少を続けており、施策を展開するも人口減少に歯止めがかからない状況となっています。また、府中町におきましても、人口自体は微増を続けているものの、昨年度の状況を考慮すると、人口の増加傾向が一転し、新たに人口減少の局面に突入している可能性があります。

今後は、年度ごとの指標の評価だけでなく、中長期的視点で人口動態の推移を捉えた上で、次期総合戦略の策定に向けて分析を重ね、効果の押し上げに連動していない事業については再組み立てを実施すること等により、目標の達成に向けて実効性のある戦略としていくこととします。

それでは、次に、K P I の達成状況です。資料の1ページにお戻りください。下の表が、K P I の達成状況になります。

K P I は、12指標のうち7つが達成、朱書きの5つが未達成となりました。達成率は、昨年度の75%から低下して、58.3%となっています。

右から2列目、「判定欄」の達成・未達成の表示に※印が付いているものは、前回から結果が反転したものを示しています。

まず、達成に※印がついている、前回の未達成から達成に転じた指標が、表の上から6つ目の「中学校卒業時の英検3級以上取得率」です。これは、研修等により教員の英語指導力の向上を継続して図っていることに加え、英語検定受験費用の助成対象を、従来の中学2、3年生から1年生まで拡大したことによるものであると思われます。

一方、未達成に※印が付いている3つの指標は、前回の達成から未達成に転じた指標です。

1つ目が、表の上から5つ目の「学校の県大会出場件数」です。未達成となった要因は、部活動において例年全国大会に出場していた強豪の部の成績が振るわなかったことによるものですが、豪雨災害により十分な練習時間が取れなかったことが影響しているのではないかと考えられます。

2つ目が、表の上から9つ目、下から4つ目の「子育て世代女性100人あたり0歳児数」です。この指標は、先ほどご説明しました基本目標②と同じ指標となっています。未達成となったことについて明確な要因は不明ですが、施策として行っている不妊治療費助成事業では、一般不妊治療で19件、特定不妊治療では97件の助成を行っており、ある程度、出生数の押し上げに寄与しているものと考えております。

3つ目が、表の上から11番目、下から2番目の「町営コミュニティバスの年間利用者数」です。豪雨災害の影響で7月以降の利用者数が大幅に減少したことにより、未達成となっております。

最後に、前回から2年連続で未達成となった指標が2つございます。

1つ目の、表の上から4つ目の「放課後子供教室の当選割合」につきましては、希望者が多い一方で、ボランティアスタッフの確保・増員が難しく、

定員を各学校で20名に制限せざるをえないことから未達成となっております。改善策として、今後は、ボランティアスタッフを増員して、定員を25名まで拡充したいと考えております。また、昨年に引き続いて、夏休みの期間に、通常のプログラムに当選できなかった児童も参加できる「夏休みチャレンジ教室」を実施し、少しでも多くの児童が参加できるよう努めております。

もう1つが、表の下から3つ目の「町内主要箇所の通行者数」です。昨年度と比べると4.3%増加しましたが、目標値には届かず、未達成となっております。調査時期や時間、天候など、同じような条件下で調査をしておりますが、毎年増減を繰り返しており、ゆらぎや誤差の範囲が相当あるのではないかと思います。

なお、KPIに関するこれまでの推移や、平成30年度の具体的な取組の実施状況につきましては、3ページ、右上に資料1-2とあるA3版の資料にございますので、ご参照をいただければと思います。

以上が、平成30年度末時点の検証結果の概要です。

引き続きまして、府中町の転入・転出数の推移についてご説明します。資料2をご覧ください。1ページ目に全体の概要を記載しておりますが、資料内容を見ながらご説明をさせていただきます。まず1枚めくっていただきまして、2ページをお開きください。上の表が、転入数の推移、真ん中の表は転出数の推移、下の表がそれらの差引きの推移です。

まず、上の表と真ん中の表において、転入・転出の総数をご確認いただければと思います。各表の右下付近の青線で囲った部分をご覧ください。上の表、平成30年の転入総数は2,356人となり、前年比で314人増加しています。一方、真ん中の表、転出総数は2,380人となり、前年比で136人増加しています。差引きで24人の転出超過となっておりますが、昨年の202人の転出超過からは縮小しています。

なお、各表の一番右の、赤線で囲った%表示の部分ですが、移動者の地域別割合は、転入も転出も、東京等大都市圏・広島都市圏・その他で概ね2対6対2の比率で変わっておりません。

また、移動者の年齢別割合は、転入・転出共に、表の真ん中下の、青線で囲った部分の20・30代が約6割を占めている状況に変化はありませんが、昨年と比較して、転入についてはほぼ全年代において、転出については15～39歳において増加しています。

下の表は、転入から転出を引いた数の推移です。表の一番右、合計と書いてある列で赤線で囲った部分ですが、地域別では広島都市圏が昨年の転出超過から一転して104人の転入超過となったほか、東京等大都市圏の転出超過についても、昨年から若干縮小しております。一方、表の一番下の行ですが、10歳刻みの年代別で見ると、20代と50代のみ転入超過で、そ

の他の世代は全て転出超過となっていることがお分かりいただけると思います。

この点につきましては、見やすくするために次の３ページに１０歳刻みでグラフ化しております。一番下のグラフである「全地域の合計」を見ていただきますと、総合戦略上のターゲットである２０代と３０代において、２０代は転入超過が増加、３０代は転出超過が増加していることがお分かりいただけるかと思います。

総合戦略上のターゲットである３０代において転出超過が拡大したことにつきましては、今後の動向を注視する必要があると考えております。

続きまして、４ページをご覧ください。上の表が府中町へ転入した理由の推移、下の表が府中町から転出した理由の推移を表しております。

東京等大都市圏への転入・転出は「転勤」など、青線で囲った部分の、言わば『仕事上の都合』によるものが６割以上を占めており、広島都市圏への転入・転出は「婚姻関係」や「住宅事情」など、赤線で囲った部分の、言わば『家庭の都合』によるものが約５割を占めるという大勢は変わっておりません。

広島都市圏において、平成３０年は、前年と同様、転入・転出共に「婚姻関係」によるものが、転入３４．４％・転出２４．４％と最も多くなりました。また、住宅事情による転出は減少傾向ではありますが、依然として大きな割合を占めておりますので、これらは今後の施策の推進においても注視すべきポイントであると考えております。

以上で資料２の説明を終わります。

○政策企画課企画調整係

政策企画課の浅田です。

それでは、引き続きまして、私から次期総合戦略の策定について、ご説明をさせていただきます。資料３をご覧ください。

まず、１の趣旨についてです。平成２７年に策定しました現在の総合戦略につきましては、今年度令和元年が計画の最終年度となっています。これについて、町の目指す将来像などを定めた「府中町第４次総合計画」、以下「総合計画」と言いますが、来年度に前半５年の最終年を迎え中間見直しを行うタイミングであることから、両者の連携を進めるために、次期総合戦略を総合計画後期と同じ令和３年度から開始するとともに、それに合わせて現総合戦略を１年延伸したいと考えております。

次に、２の概要についてです。今後の総合戦略に係る取組についてですが、法律により策定の責務があることや、人口減少対策は町の重点課題であることから、引き続き、次期総合戦略を策定して取組を進めていくことが必要であると考えております。この次期総合戦略の策定にあたりましては、総合戦略と総合計画は、人口減少対策といった点で同じ目的を持つものであるため、

一体的に策定し、連携のうえ推進すべきものであると考えております。このため、総合戦略につきましては、総合計画の前期計画期間の終期である令和2年度末まで1年間延伸し、計画期間が同じ5年間である総合計画後期に合わせて、令和3年度から同時に進行するよう、計画期間の調整を行うこととします。

なお、この計画期間の調整につきましては、資料の下の部分にイメージ図を掲載しておりますので、ご参照をいただければと思います。

次に、現総合戦略の延伸と次期総合戦略の策定についてのポイントをご説明します。

まず、延伸につきましては、基本的な考え方や基本目標、K P I 自体には変更を行わずに、1年間延伸することとします。なお、指標の期間の延伸にあたりましては、各指標のこれまでの進捗状況を踏まえつつ、個別に目標値を検討して設定することとします。

次に、次期総合戦略策定につきましては、まず1点目が人口ビジョンについてです。人口ビジョンは2060年までを対象期間としておりますが、策定後の人口の実績値等を踏まえて、次期総合戦略の策定に併せて見直しを行います。

2点目が策定のプロセスについてです。策定に当たりましては、当初策定時と同様、アンケートやパブリックコメントにより住民意向の反映を行うほか、今年の12月に策定予定である国の次期総合戦略の内容を踏まえて、内容を検討したいと考えております。

次に、現総合戦略の改訂方針および今後のスケジュールについてご説明します。まずは、現総合戦略の改訂方針についてご説明します。資料3-1をご覧ください。

現総合戦略の改訂につきましては、年度内には改訂を完了する予定ですが、それに向けて、本日の会議でのご意見を踏まえて改訂作業を進めたいと考えております。

まずは、1の「各指標の目標値の変更について」です。現総合戦略を延伸することで最終年が後ろにずれることから、それに合わせて各指標の最終的な目標値を変更することとなります。

変更にあたっての目標値の設定についてですが、各指標のこれまでの進捗を踏まえ、凡例と書いてある四角囲みの中にあるAからEまでの5つのパターンに当てはめて設定を行っております。設定の基本的な考え方として、実績値が目標値を下回っている、もしくはほぼ目標値どおりの指標につきましては、現状の目標値に沿った形のAもしくはBとしております。また、実績値が既に最終の目標値を上回っている指標につきましては、実績値に沿った形のCもしくはDとしています。なお、総合計画に基づく施策や事務事業と重複する指標につきましては、整合を図るため、基本的には同じ目標値を設

定することとしています。

次に、2 ページの、関連する事務事業の掲載についてご説明します。

総合戦略では、基本目標を押し上げるためのものとして K P I が位置付けられていますが、それ以外の第 4 次総合計画にぶら下がっている事務事業についても、押し上げに資するものがあります。このため、基本目標の達成に向けた町としての取り組みの全体像が見えるよう、関連する事務事業を参考情報として掲載したいと考えております。

掲載する指標につきましては、資料のとおり、①の子育て支援分野で 1 9 事業 2 1 指標、②の生活利便の向上・地域の魅力の向上分野で 1 事業 1 指標となっております。また、表の中で網掛けの部分につきましては、基本目標等の指標の押し上げに直接的に資するものなど、より関連性の強いものを示しています。

なお、指標の大半が、「子育て支援」分野のものとなっておりますが、これは、現在の総合戦略自体が子育て支援に特化した形となっており、他の「生活利便の向上」「地域の魅力の向上」は、構成する K P I や施策が少なく、関連する事務事業も少ないことによるものです。

また、これら事務事業の指標につきましては、添付の A 3 で 2 枚の参考資料に詳細を記載しております。こちらでは、事業の概要やこれまでの進捗状況を記載しておりますので、ご確認をいただければと思います。

以上の改訂案につきましては、本日の会議で方向性をお示しさせていただきました。今後はこの方向性に沿って事務を進め、今年度内には改訂を完了し、委員の皆様へお配りしたいと考えております。

資料 3 - 1 の説明については以上です。

次に、今後のスケジュールについてご説明しますので、資料 3 - 2 をご覧ください。

まず、表の一番上の現総合戦略の延伸についてです。こちらは本日頂いたご意見を踏まえ、年内に改訂案を作成し、年明けには改訂を完了して皆様にお示ししたいと考えております。

次に、上から 2 つ目の次期総合戦略の策定についてです。こちらは、先ほどご説明しました通り、総合計画の改訂と時期を合わせることで、一番下の総合計画の改訂とほぼ同じスケジュールとなります。流れとしては、来年 4 月頃までを目途に、アンケート調査や現総合戦略のフォローアップなど、策定に向けた課題の整理等を行います。その後、調査結果や抽出した現総合戦略の課題を踏まえて原案を作成し、パブリックコメントを経て成案を作成する流れとなります。

なお、来年度の有識者会議につきましては、▲で示す通り、7 月頃と、1 2 月頃の 2 回を予定しております。まず、7 月頃の第 1 回有識者会議では、年度末検証とあわせ、次期総合戦略の実施方針についてお示しし、委員の皆様

さまからのご意見を踏まえて、原案の作成を進めてまいります。

その後、12月頃の第2回有識者会議では、パブリックコメントを経た成案段階の次期総合戦略を、皆様にお示ししたいと考えております。

資料3-2については以上です。

次に、将来推計人口の状況についてご説明します。資料4をご覧ください。

先ほどご説明しましたが、次期総合戦略の策定に合わせて、人口ビジョンも見直しを行うこととしております。見直しに当たりましては、次期総合戦略の施策の効果等も加味して目標人口を設定しますが、今回は、平成27年の策定以降の実績値等を反映した現在の状況についてご説明します。

まず、グラフで一番下の青線の系列①が、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研の平成25年、2013年推計人口です。人口ビジョンでは、この推計人口を基に、住民基本台帳の人口の動きに合わせて補正を行い、そこから総合戦略の基本目標である「出生率回復」と「子育て世代の転入増」を共に達成することで、2060年も5万人の人口が維持できると予測をしておりました。これがグラフの③の線となっています。

このように、人口ビジョンのベースとなっている社人研の推計人口についてですが、平成30年、2018年に、新たな推計人口が公表されました。これがグラフの②であり、①の線と比べると大きく上振れしております。

この結果を踏まえ、人口ビジョンを再計算したところ、グラフで一番上の線④となり、当初より若干上振れする見通しとなっています。

このように、策定当初の状況と比べて、人口の減少傾向は緩やかになる見込みではありますが、それでも②のとおり何も対策を講じなければ、2035年には5万人を割り込む見通しとなっていることから、人口ビジョンに掲げた目標を達成するためには、引き続き、人口の押し上げに係る施策の推進を図る必要があります。

資料4については以上です。

以上が、「府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成30年度末時点の検証および次期総合戦略の策定」についてのご説明です。ご説明しましたとおり、現在の総合戦略については令和2年度まで延伸し、令和3年度からは新たな次期総合戦略により、引き続き地方創生の取り組みを進めてまいりたいと考えております。

現在の総合戦略では、「子育て世代が居住を選択するまち」を目指して基本目標を設定しておりますが、これまでの進捗を見ると、必ずしも順調であるとは言えない状況となっております。このため、次期総合戦略では、これまでの取り組みについて検証・分析を行い、より実効性のある戦略を構築してまいりたいと考えております。

次期総合戦略につきましては、来年7月に予定の次回有識者会議にて実施方針をお示ししたいと考えておりますので、この方針を検討するに当たり、

現在の取り組みから改善すべき点やお気付きの点、新たに盛り込むべき点などについて、皆さまからのご意見を頂ければと思います。

それでは、事務局からの説明は以上になります。

よろしくお願いいたします。

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

総合戦略と府中町第4次総合計画をリンクするということで、総合戦略を1年間延伸するけれども、1年間止まるのではなく、第6年目として目標設定をし、取り組みを続けていくという説明であったと思います。

皆様から意見をお聞きしたいと思いますが、質問と意見で分けると難しいと思いますので、そこは分けずに、分かりにくいところは質問をしながら進めていきたいと思っています。

それでは何かご意見等ございますか。

○森岡委員

子育て世代の転入という観点で、何点か質問や意見があります。

私自身4～5年前に夫の転勤で引っ越してきて、その当時は待機児童がいなかったのですが、今は3桁の待機児童がいてなかなか保育所に入れないという話を聞きました。これについて、待機児童解消に向けての対策が次期戦略に入ると、引っ越す時に選択肢に入りやすいのではないかと思います。

私も娘2人が幼稚園に通っていますが、預かり保育もこの1年で20人から30人に増えて、母親が働いている子どもがどんどん増えてきています。金剛保育園やひかり保育園が園舎を増やすという話を聞いていますが、そういうところをもう少し教えてほしいですし、待機児童の実数の数と、それを解消していくためにやっていることをぜひ教えていただければと思います。

私の娘は2人とも幼稚園に入園する前に、シルバー人材センターがやっている「シルバーママサービス」という小さい託児所をよく使用させていただきました。これですごく有り難かったのが、パンフレットにリフレッシュ目的で使ってくださいと書いてあることです。リフレッシュ目的で使って良いと言ってもらわないと、一時保育って使いにくいんですよね。あまり人数が増えるとシルバーママさんも大変だとは思いますが、使ってみて利用者がそこまで多くないと感じましたので、こういうものがあることを出生届を出す際などに教えてもらえればと思いましたので、これも次期戦略の中に入れていただければと思います。

もう一点ですが、もし私が引っ越すとなった時に行き先を選べるのならば、次に娘が小学校に入るので、学校教育がどうなのかということを重視したいと思います。その時にどんな学校教育を求めるのかということについて、質の高い教育も大事ですが、その前にどんな子も安心して通えるというのが、私にとっては理想だと思っています。文科省が「不登校に関する調査研究協力

者会議フリースクール等に関する検討会議合同会議」というものを行っており、20回目の議事録を見ていたのですが、例えば不登校や登校拒否の子に対して、今までは学校に来させるという一辺倒だったものが、学校に無理やり来させるのではなく、他にこういった選択肢があるのか検討していこうという方向に変わろうとしています。

娘たちもまだ入学していないので分かりませんが、府中町の小学校や中学校で、不登校に関する支援はどれくらいされているのでしょうか。自分の子どもがそうなった時に安心して相談できるのかが分からないので、そこを示して頂ければと思います。安心して通えて、そこから質の高い教育かと思うので、まずはそこを主軸においていただければと思います。

また、そういう対応を増やすと先生方がすごく大変だと思います。府中町ではどうか分かりませんが、例えば夏休み中のお祭りの見回りを先生がやっているという話もあって、それは先生のすべき仕事なのだと思います。そのため、そういった先生方の仕事を減らす取り組みもできればいいのかなと思いました。

なかなか他の自治体と比べて何が良い、どこが違うということは見えにくいので、できればそういった安心して子どもたちが通えるという面で押せると、とても強いと思います。今時代が過渡期に入っており、学力も大事ですが、今までの価値観である学力からちょっと方向転換していけると、とても魅力のある町になるのではないかと思います。

○座長（上之園委員）

お話しいただいたのは2点ありまして、まずは保育所の充実と待機児童の解消、2つ目は安心して通える学校についてということかと思います。

まずは、保育所について、待機児童がどうなっているのかという現状と対策を事務局に伺いたいと思います。それから2点目は、特色ある教育と、全ての子どもが安心して学校教育を受けられるような体制、特に不登校に着目して、お伺いしたいと思います。

○福祉保健部長

福祉保健部長です。

まず1点目の待機児童の状況とその対策についてですが、国の定義によるいわゆる待機児童は4月と10月に発表される人数になりますが、今年度は4月1日で4名いました。後にその4名は保育園に入れましたので、10月1日は0人という発表になると思います。

ただ、おっしゃっているのは、希望の保育園に入れなかったりして潜在的に待たれている方のことだと思いますが、こちらは4月1日時点で131人おり、9月1日時点では164人いる状況です。

府中町の保育に関しては、「府中町子ども・子育て支援事業計画」を立てて今年度が5カ年目になりますが、それに合わせて第2ひかり保育園を増員し

たり、金剛保育園を建て替えて増員したりしてきましたが、その他に、来年の4月1日開園の120名定員の保育園を建設中です。

これはマンションの建設やこれからの人口推計を計算し、120名定員の保育所で当面カバーできると考えていますが、周辺では新たなマンションが建っていますし、女性の就労も増えてきていますので、計画以上のハイペースで保育所の希望者が増えている気がします。

今は、来年度からの5カ年の計画を立てているところで、見込み量と確保量についてのニーズ調査をしているところです。保育所は希望が多いと思いますので、状況を見ながら、しっかり軌道修正しながら計画を立てていこうと思います。

○座長（上之園委員）

一時預かりの体制については何かありますか。

○福祉保健部長

先程リフレッシュ目的ということがありましたが、リフレッシュ目的で一時預かりができる施設や、就労が条件であるもの等、色々あると思います。

転入の際にそういう情報があると助かるということでしたが、府中町では「子育てマイブック」という形でご案内しているほか、保育士資格を持つ職員が子育て支援課におり、転入の時に相談や説明をしておりますので、もし迷っている方がいらっしゃれば、ぜひ気楽に声をかけていただければと思います。

ただ、今から幼児教育保育が無償化になるに伴い、幼稚園の一時預かりも在職証明が必要になる等、諸条件が付いてくると思います。そこを見ながら、リフレッシュしていただくには一時預かりが本当にいいのか、児童センターを交えた事業をしていく方がいいのかというところは、しっかりメニューを見ながら考えていきたいと思います。

このように、一時預かりについては無償化との兼ね合いがあるので、今すぐは答えできないのですが、そこもしっかり計画の中に入れてまいりたいと思います。

○座長（上之園委員）

このことについては、総合戦略にも入れていただければと思います。

それでは、不登校など、どの子ども安心して通える学校教育ということについて、伺いたいと思います。

○教育長

教育長です。

学校教育における特色ある教育については、志の教育ということを中心に進めています。志の教育というのは、いわゆる夢や志を持って挑戦し続けていく子どもを育てようということを大きな目標としています。学力には3要素というものがあるのですが、1つは基礎的基本的な事項、そして2つ

目がそれを使つての思考力や判断力、表現力、3つ目が学びに向かう力です。こういったものを学校教育の中で身に付けさせておりますが、志の教育や質の高い教育を進めていくために、大きく2つの要素を考えています。1つは、まずは志を高める出会いを作る、子どもたちが将来に向かって生きていくぞという意欲を身につけさせること、そして2つ目がそれを具体的に実現させていくためのスキル、これは先ほどの学力3要素ですが、そういったことを身に付けさせる取り組みを行っています。

取り組みとしては、志を持って生きてきた人との出会いの場を作ること、そして具体的にスキルを身につけさせていくための授業改善を進めておりますが、授業改善のためには小中連携が欠かせないと思っています。これについては、小学校の先生が義務教育を修了した時の子どもの姿をイメージし、どういう力で育っていくのかということを共有する取り組みをしており、具体的には公開授業等を通して校区ごとに小中連携を進めています。

学力についても頑張つてほしいと思っておりますが、国の全国学力テストの結果で見ますと、府中町の平均は全国トップレベルといったところであり、広島都市圏の中でもある程度のトップレベルにいます。体力運動能力についても、5年前はほとんど県内平均以下でしたが、今は小学校では県平均以上は7種目中5種目以上くらいになっていますし、中学校もほぼ県平均を超えるくらいの割合になってきています。とは言っても平均ですので、中学校では分布が二つのコブになっているところもあります。今課題になっているのは、学力で30%未満の子をどうするかということについてであり、新しい指標を考えながら進めていきたいと思っております。

また、特色のある教育としては、小中連携の他に、学校と地域の連携としてコミュニティスクールという制度を導入して、町内全部の学校で地域の力を借りて子どもたちを育てていこうという取り組みを進めています。

不登校についてですが、不登校は本当に大きな課題でした。

取り組みとしては、どこの町でもやっているようなことをしてきており、60日休んでいた子が40日になったとか、50日の子が30日になったといった成果は出ていたのですが、不登校は30日以上欠席になりますので、成果が目に見えて出ていませんでした。平成27年は、中学校は府中町が4.2%で県平均は2.55%、小学校は府中町が0.53%で広島県が0.45%であり、どちらも県平均を超えていました。

これをどうにかしたいということで取り組みを進め、昨年度やっと県平均くらい、今までは20人を切ることは考えられなかったのですが、中学校で一方が11人、もう一方が19人という結果になりました。

この取り組みとして、一つは、教員は教員の専門の仕事をしっかりやっていこう、そして教員ができないような専門的な仕事、例えば教育相談などはスクールカウンセラーで、家庭との連携等については、スクールソーシャル

ワーカーといった人の力を借りようということを、町単独で行っています。

不登校については、発達障害とも関係があります。そういう子を授業の中で専門家の目から見て、“ちょっと発達障害的なところがありますが、こういうことはありませんか”という指摘ができ、先生方も“そういうことか”と分かって必要な手立てを打つことができるといった取り組みをしています。

これにより、昨年度は小学校が0.38%、中学校が2.42%まで下がって、県平均はまだ出ていないので分かりませんが、これまでの県平均と比べるとずいぶん下がっています。

しかしながら、不登校は本人にとっては大変な問題ですから、少なくなったらいいという問題ではなく、そういう取り組みをしっかりと進めていきます。

また、こういった取り組みをどこまでできているか皆さんにお伝えできるようなアウトプットが課題かと思っています。

○座長（上之園委員）

町費で専門家に来ていただくなど力を入れているようですが、そのあたりが伝わってこないという点もあるようですので、そこも考えていただければいいかなと思います。

それでは、住んでいての実感の話をしていただいたので、そのつながりで住民代表の松本委員からお話いただければと思います。

○松本委員

松本です。

小学校でも中学校でもPTAをさせていただきましたが、不登校については本当に問題で、PTAの方でも何とかできないかということで、学校と連携して先生方とも頭を悩ませながら、様々な取り組みをしてきました。府中町のすごいなと思うところは、そういったPTAに携わっている方や、OBになった方達が、居場所づくりという形で不登校の子どもさんやお孫さんを受け入れるような活動をされているということです。

主任児童委員として見ても、子育てとか不登校で本当に悩まれている子どもさんやお母さんがたくさんいらっしゃいますが、教育長が言われたように、府中町では不登校の数がすごく減ったんですよね、これは本当に素晴らしいくらいの数なんです。どう手をつけたらいいか分からない状況からここまでの数に減らしたのは、すごい取り組みをされたんだと思います。ソーシャルワーカーさんとか府中町独自ですよ、すごいことだと保護者としては思いました。学校では、先生が皆に接して細かく情報を聞いているのですが、本当に先生方はよく把握されています。そしてどの生徒一人一人も大事にされている状況も聞いております。不登校の問題はどこでもあると思うのですが、各学校の先生方はしっかり子どもたちや家庭のことを把握されながら、長い時間をかけて、しっかり足を運び、声をかけているということを感じています。主任児童委員としても、関わるのが難しい部分もありま

すが、協力して情報交換しながら、助けになればいいなと思っています。

あと、地域の目から見て気になったのは防災ですね。力を入れて考えられていると思うのですが、安心・安全な町という点はもっと力を入れてやられてもいいかなと思います。

○座長（上之園委員）

具体的に防災で気になった点は何がありますか。

○松本委員

この前民生委員で体験したのですが、「h u g」というものがあります。これは、災害時における対応をグループで行うシミュレーションで、状況のカードがどんどん出てきて、それを見ながら対応を検討するというものです。

例えば、怪我をしたお父さん、具合が悪いお母さん、熱のある子どもがいましたという状況が出て、体育館と学校とグラウンドを使ってその対応をしてくださいと言われます。それで、グループの人たちで、受付をどこにしようか、病気の人はどうしようか、トイレはどうしようかということを制限時間内で対応していく体験をして、本当に大変だなと思いました。

府中町の人たちは昨年の災害で少ない人数で対応されたんだと感じましたし、こういうことは知っておいたらできることがあるのではないかとということで、知っておいた方がいいなと思いました。

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

居場所づくりや不登校ということも難しい問題で、特に外から来られた方は、誰に、どこに相談すればいいのかというあたりはもしかしたら課題なのかもしれません。

それでは堀部委員、お願いします。

○堀部委員

私が勤めている児童センターではいろんな子が遊びに来ます。私は主に小学校の先生と連携を取りながら、遊びに来ている子どもたちのことを考えているのですが、子どもたちって学校の顔と家の顔、それから児童センターで見せる顔がそれぞれ皆違うんですね。それで、児童センターでちょっと気になる子がいても、先生に相談すると学校では全然そんなことはないという話も聞いたりしますので、児童センターで見せてくれる顔に対してどう接していけばいいのかというのも、スタッフとして考えているところではあります。こうして先生の話の聞いていると、先生も忙しい中子どもたちのことをすごく考えておられて、本当にすごいなと思っていますところなんです。

それで、子どもたちが児童センターに遊びに来ていますが、習い事があって本当に来れない子もいます。家庭によって教育方針もあり難しいと思いますが、今日は何時までと言って帰っていく子を見たら、子どもたちも忙しいなと思いながら日々接しています。

家庭の状況にもよると思いますが、そういった子たちがもっと自分を出して友達としっかり関われる時間が持てたらいいのにと 생각합니다。子どもどうしの会話や遊ぶ姿を見ても、昔と違って人付き合いが下手になってきているなというのを感じます。それは小学生だけではなく、幼稚園児やまだ小さい子どもたちも人付き合いが難しくなっているのかなと感じることがあるので、しっかり関わる機会を持つていくことが大切かと思っています。

今後それをどうしていけばいいのか、私たちの仕事の中でどう生かしていけばいいのかというところはあると思いますが、支援センターや子育てサークルなどもたくさんありますし、色々なところで色々な関わりをやっていることをもっと皆に発信した方がいいのか、とはいってもあまり人数が増えるとサークルも大変になるのかなと思ったり、そういうところをいま考えています。

また、今年も大学生がボランティアで児童センターに遊びに来ていただいたのですが、そういう目的を持って来られる学生さんは、子どもたちとの関わりをどう持っていこうということを考えておられるので、すごくいいなと思いました。子どもたちにとっても新鮮で生き生きとしていますし、私たちも普段気付かないことを気付かされることができましたので、もっと来ていただけたらなと思います。

○座長（上之園委員）

それでは、住民代表の方の話をお聞きしましたので、産業界として商工会の中村委員、お願いします。

○中村委員

教育についての話ですが、府中町の英検3級以上取得の施策について、これは非常に良いことだと思います。これは府中町しかしていない行政の支援ですので、しっかりアピールしてほしいと思います。英検を受けるためにはお金がかかりますが、一方で、自分の能力を試してみたいという生徒も中にはたくさんいます。この援助が後押しになり、これを目標にして一生懸命勉強したという生徒もこの中にかなりいると思います。これはぜひ府中町の行政として、こういうことを支援しているんだという一つのアピールにしてほしいと思います。

それと、以前新聞で読んだのですが、住みたいまちで府中町がナンバーワンになっており、それはなぜかと言うと、子育てや買い物が便利で、市内から近いからということでした。その市内から近いということですが、JR天神川駅ができて子どもたちが教育を受ける場が広がりました。例えば電車に乗って東広島や広島市に行ったりすることができるようになり、天神川駅ができてからは、府中町は教育圏の町であると思っています。また、自転車で市内へ通うこともでき、距離的にも素晴らしいと思います。

それと、もうひとつ商業圏についてですが、イオンモールでは若い人たちが多いのですが、府中町の方ですかと聞いてみると、府中町以外の人が多い

です。そこを見ていると非常に施設がいいんですね、子どもたちが遊べるスペースとかおむつを替える場所とかがすごく整っているんです。一方で外を見てみると、なかなかそういう施設が見当たらないんですね。小さい子を外に出して遊べる場があるのかと周りを見てみますと、公園がありますが、狭いので子どもたちが思いきり遊べる場所が少ないですし、遊具も少ないです。その中でも、危ないということもあるのでしょうけど、中学生や小学校高学年でボールを使うことができる場所が府中町にほしいと思います。

安心して遊べる場がイオンモールの中にあって、子どものいる若いお母さんたちがママ友になったりして楽しくされていますので、その人たちに外に出てもらいたいなと思っています。子育て支援とありますので、是非とも伸びやかに遊べるよう、公園関係を確認してほしいなと思います。

○座長（上之園委員）

今住んでおられる方が実感していることについて、話が出てきています。

それでは、次に藤川委員、お願いします。

○藤川委員

いろんな話を聞いて、外の方にどうやって伝えようかということにすごく困っていらっしゃるのかなと感じました。私は今2人の子どもがいて、安佐南区に住んでいますが、安佐南区を選んだ理由としては妻の実家があるからです。もしそういった縛りがなければどこを選ぶだろうかと考えてみると、いろんな情報を探ろうとしたと思います。

それで、かつて自分が住んだことがある場所を中心に調べてみたりしましたが、やはり友達に聞くなどといった口コミはすごく大事だと思います。そういう話を知り合いに聞くと、府中町はとても住みやすいという話はよく聞きます。実際、友人にも府中町に住んでいて引っ越す気はないと言う人もいて、その理由はやはり子育てしやすいとか、皆さんがおっしゃったことが耳に入って来るのですけども、そういうチャンネルがない人たちにとって府中町の良さを伝えるのは難しいのかなと実感しています。

その中で、先ほど良さが見えにくいという話もありました。伝える相手として一番ターゲットにしているのが20代から30代の女性ということだと思うのですが、一方でその人たちはなかなかテレビを見ないと思います。特に20代は共働きなど働いているとテレビは見ないですし、どちらかというとスマートフォンのほうが接する機会としては多いと思います。そういうものを活用した広報戦略、伝え方というのを中心にやっていくのも、広報の手段かなとは思いますが、逆に口コミというのはすごく近いところには伝わっていると思います。

私自身も安佐南区に住んでいながらイオンモール広島府中はよく来ますが、それはやはり子どもを遊ばせるスペースがあると知っているからであって、知ってもらおうと間違いなく良いと思ってもらえるエリアです。

また何かあればお伝えできればと思います。

あと、もしご回答いただけるのであれば、どんな広報をやっているか教えていただければと思います。

○座長（上之園委員）

それでは何か力を入れている広報戦略があれば、事務局からお願いします。

○総務企画部次長

今地道に取り組んでいるのは、各種イベントに参加させていただき、例えば魚釣りみたいな子どもさんに来ていただく催しをしながら、そこに来ていただいた保護者さんに対して、府中町はこんなに住みやすいですよというパンフレットをお配りしています。

また、今年度の取り組みとしましては、町のPR動画について、PR大使と話をしながら、できるだけ目に留まるような動画を作るように準備を進めているところでございます。

そういった地道な取り組みを進めていき、府中町の良さをもっとアピールしていきたいと考えております。

○座長（上之園委員）

高校生や大学生でも、スマホなどのメディアしか見ないといった人もいるかもしれないので、若い人へどのように発信していくかも課題かと思います。

それでは、府中町のマツダにおられる原田委員、そちらの視点からご意見などを聞かせていただければと思います。

○原田委員

私も安佐南区に住んでおります。ここを選んだ理由としては、近くに大きな公園や川があることや、学校が近いということであり、自由に遊べる非常にいい環境です。子どもが小さい時は、川に行って遊んだり、何か取ってきて自分で勉強したりと、自然に触れ合うことができたところが非常に良かったのですが、こういったところは府中町も近いのかなと思います。

私は労働組合という立場で考えると、今は非常に働き方が多様化し、仕事も業務も密になっています。そのため、お父さんお母さんも職場を抜けられないので、仕方なく子どもさんを預けなければならない、しかし預けるところがないといった循環に入っていると思います。組合の立場としては、どうやったら皆さんが安心できるかということで、安心して会社に来られる働き方の制度を、会社としっかり作っていかねばと思います。自分は娘がもう成人していますが、今の子育て世代の方は本当に大変だと思っています。

一つ気になったのが、子どもの顔がいろんな場面で違うと先程おっしゃったことが、まさにその通りだと思うことです。私は地区で子どもに野球を教えているのですが、野球をしている時の顔と学校での顔は違うという声をよく聞きます。スポーツをするときは素直なんですけども、いざ教室に入ったらガラッと変わる、こういう子が多いんだなと思いました。

そういう観点で色々皆さんの声を聞きながら、連合広島では働くことを軸とした安心社会の活動をしていますので、また何かできることがあればやっていきたいなと思っています。マツダという形で府中町に色々お世話になっていますので、しっかり連携しながらやっていきたいと思っています。

○座長（上之園委員）

企業の働き方も変えていかれると思いますが、受け皿として府中町にも関わってくると思います。

ここまでの話で、子どもの居場所として公園など遊ぶ場所について出てきたのですが、子どもたちが自由に遊べる公園の整備についてお考えはありますでしょうか。

○総務企画部長

公園整備につきましては、小学生くらいでキャッチボールをしたいという子どもが多いのですが、そういった場所がないということがありましたので、府中町では2年前に、柳ヶ丘地区の保育所跡地を公園にして、軽くキャッチボール等ができるようネットを張って整備するといった、他にはない取り組みをしています。

児童公園や児童緑地は多くありますが、うまく活用ができておらず使われていない公園も多くあります。自然公園としてはみくまり峡森林公園がありますが、災害により今は一部しか自然に触れ合える場所がない状況です。

他には、これは子どもたちだけで行けるような公園ではないのですが、揚倉山運動公園という大きな公園があります。ここは天然芝のグラウンドが2つあったのですが、災害で下段のグラウンドの芝が使えなくなり、土のグラウンドとしています。上段の方は国体のサッカー会場にもなったサッカーグラウンドなのですが、そこを人工芝にしてもっと利用が増えるよう、計画をしております。

また、空城山公園というのがよく使われる公園なのですが、ここはすごく稼働率の高い公園で、町内はもちろん、広島市内や海田町など近隣からも遠足で来る場所となっています。時期になると予約を取るのが大変なくらい各学校が集まって、お弁当を食べる場所がないと苦情が来るような有名な公園です。今年はその遊具を更新するという計画を立てており、タコの遊具という子どもたちの間ですごく有名なものがありますが、それに加えて遊具を増やそうと計画しております。ここは来年の緑化フェアの部分的な会場となっておりますので、それまでに整備しようと考えています。

○座長（上之園委員）

ありがとうございました

それでは、住宅のことや、住みたいけど住むにはどうなのかといったことがあると思いますので、金融の立場から平野委員、お願いします。

○平野委員

それでは、広島銀行安芸府中支店の支店長をしてありますが、安芸府中金融懇談会を代表しまして。

先程からの話の流れで言うと、私は広島市東区の在住です。息子が二人おり、もういい年ですが、10年前には先ほど話にありました揚倉山運動公園や空城山公園によく行っており、その時から府中町はこういう環境があつていい町だなと思っていました。あと、この場で初めて知りましたが、英検の受験助成などの取り組みをしていて、まさに子育て世代が住みやすい町であると思います。

それで、住む礎というのがまさに座長さんが言われた住宅だと思うのですが、住宅を購入するとなると、府中町の地価は幹線道路沿いや駅の近く、あるいはイオンモールの近くだと、非常に高いですね。坪単価が高くてびっくりするくらいですし、大規模なマンションもできていますが非常に高いです。幹線道路沿いで30～40坪の一戸建てを建てると、それこそ4～5千万円かかりますが、20～30代はまだ所得のカーブが上昇期で、そんなに余裕もなく、1次取得で新築は難しいというところは実感としてあります。

一方で、府中町も30～40年経った団地がたくさんあり、これも全国的な問題だと思うのですが、高齢化して空き家も出てきています。我々も不動産会社とやり取りをしています。便利のいい幹線道路沿いがある一方で団地は過疎化し、このままでは二極化しかねないと感じています。そういうところを何とか若い人が住みやすいようにするために、例えば中古住宅を20～30代の方が取得する時に利子補給や住民税の優遇をするなど、何かしら工夫をして、若い人も府中町で一軒家を買えるような取り組みを検討してもいいのかなと思います。

○座長（上之園委員）

住みたいので住めるようにという、住宅の切り口でお話をいただきました。

それでは、次に私から話をさせていただきます。

今の若い子育て世代の方にとっては、まずは結婚、次に出産、それから小学校など区切りの時期があると思います。そこで、先ほど教育長から小中連携が進んでいるという話がありましたが、保育所が公立ではない府中町では難しいかもしれませんが、保幼小中連携のようなことがあっても良いと思います。

小中連携が進んでいるという一方で、その前の幼稚園から小学校に上がる時期のハードルが高く、今問題になっています。府中町で保育所や幼稚園の子どもがそのまま小学校に上がっていき、そしてその子どもたちの情報や学びがちゃんとつながっていくことを発信できれば、出産から幼稚園、小学校というところで切れず、結婚、出産から教育までがつながるのではないかと思います。非常にハードルが高いと思いますが、保幼小中連携というものができればいいかなと思います。

2点目は、府中町はソフト・ハード面でかなり施策をされており、ICTや英検など色々なものを今後発信していけば良いと思いますが、今度はソフトの面で先生方が使いこなし、それを生かしていくことで、特色ある教育になるのではないかと思います。

それから先ほどお話しいただいた大学生のボランティアも、広島市内や近隣の市町からもたくさんボランティアの要請があります。そこで、府中町のボランティアにおいては、府中町の一員として、府中町の目指す保育や教育と一緒に研修していくということもいいのかなと思っております。「府中町が目指す保育や教育に向けて一緒に協力してほしい」というようなボランティアというのがあっても良いと思います。

それでは、桑原委員お願いします。

○桑原委員

それでは、行政の立場として、地方創生と一緒に取り組んでいる立場から何点か確認とお願いをしたいと思います。

まず1つ目ですが、資料4に人口ビジョン将来推計があり、これは5万人を維持するということでグラフを作成されていますが、これは社人研の推計値の府中町分を取り出し、町で施策を打つことで、これだけ人を増やすということで積み上げて、施策の柱になっています。それで、総合戦略は子育て世代に特化した、ある意味尖った計画になっており、それはそれで良いと思いますが、人口ビジョンを推計する時に高齢者や自然減をどのように見ているのかというのが見えなかったと思います。県全体では、社人研推計で280万人から190万人になるという見込みが出ていましたが、それが2015年の再推計で220万人になるという結果が出ています。それを基に県の総合戦略を作っており、その差をどうやって埋めていくかを一生懸命考えているところです。今日ここで頂いた議論や考え方、施策については県のビジョンにも反映していきたいと思っていますが、まずは高齢者の部分についてどのように推計されて、そこに対して本当に対策を打たなくてよいのかというところがあります。転入転出を見ると、残念ながら40代以降の方々はほとんど転出になってしまっていますので、これを何とか繋ぎ止めて住み続けてもらうという取り組みがあってもいいのかなと思ったのが一点です。この回答については、今後検討する中で議論していただくなり、個別で教えていただければと思います。

それから2点目ですが、資料1-1で、20～39歳女性人口あたりの0歳児数がありますが、30年度だけちょっと異常値ではないかとも見受けられますので、ここの分析は丁寧にした方が良いと思います。例えば第3子まで産んだ方が第4子を産むのかということ等も含めて、もう少し多面的・複層的な評価分析をされたら良いと思います。施策の方向性自体が間違っているということではなく、この年だけ動きがちょっと変なので、そう思ってい

ます。

後は説明で事務局からもあったように、K P Iのうち、子ども連れ家族の生活利便性向上のところで、公共交通の利便性向上は必要なK P Iだと思いますが、それ以外については、これをやれば府中町を選んでもらえるのかというと、ちょっと合っていない感じがします。これはぜひ次期の計画策定に向けて、また会議の場でいろいろ意見交換をさせていただきたいと思います。

そして、打ち手として、資料3－1の2ページ目で関連する事務事業の掲載がありますが、これは黄色の網掛けの部分がK P Iという話だったと思います。それ以外は今回のK P Iに入っていないということですが、ここに非常に重要なファクター、K P Iになりうるものがあるので、これは次期総合戦略で入れていただきたいと思います。

そして、皆さんが言われた情報で私が知りうる情報で2点ほど。座長が言われた保幼から小中の連携については、実は府中町は県内トップランナーです。県のネウボラ事業と子育て支援事業のモデル事業を両方とも受けてもらっていて、その中で幼保から小中への子どもの受け渡しの考え方も一番先進的にやっていると思います。これはまた次期戦略の中に入ってくると思いますので、打ち出しの一つになるのかと思います。

あと公園ですけれど、ハッピーズ、新しく建てたところですが、その余剰地の使い方が上手だと思います。バスケットゴール一つくらいですが、子どもがよく使うらしいです。他にもロッククライミングができるとか、子どもはあれば使うので、今までにないものを考えたらいいかと思います。

また、藤川委員が言われた発信の話について、20～30代の女性がターゲットという時点でもう方向性が決まっていると思いますので、ネットを活用したP Rが効果が出るのではないかと思います。そういったお手伝いは県の方で相談も含めて受けていきたいと思います。

○座長（上之園委員）

今既にかなり力を入れている部分があるということでした。また、発信ということについては、今後どのようにしていくかというところかと思います。

予定された時間になりましたが、他によろしいでしょうか。

それでは関連なご意見を頂き、ありがとうございました。府中町におかれましても、次期総合戦略の策定に向けて、人口推計や取り組みについての評価検証の話があったと思いますが、今日の会議で委員の皆さんから頂いた意見を参考にして進めていただければと思います。

それでは最後に、今後のスケジュール等について事務局からお願いします。

○総務企画部次長

本日は大変お忙しい中ご参加を頂きまして、ありがとうございました。

現総合戦略の延伸につきましては、本日頂きましたご意見を踏まえて町としての案を取りまとめ、今後議会への報告を行い、その後、今年度内には改

訂を実施する見込みでございますので、その際には皆様へ改めてご報告いたします。

今回の会議につきましては、先ほども申し上げましたが、来年の7月頃を予定しております。その際には、令和元年度末時点の検証についてご報告するほか、次期総合戦略の方向性についてお示しし、ご意見をいただきたいと考えております。

なお、本日の会議の議事録を事務局で作成いたしますので、内容のご確認について、後日改めてご連絡させていただきます。

以上、今後のスケジュールでございました。

5) 閉会

○座長（上之園委員）

それでは予定の時間となりましたので議事を終わりたいと思います。閉会にあたって佐藤町長から一言お願いします。

○町長

本日は大変お忙しい中ご出席を賜り、また、しっかり議論をいただき、ありがとうございました。それぞれ皆様方のご意見につきましては、次期戦略の策定に非常に参考になるものであり、担当の方としても、こういう視点を入れなければいけないということがしっかりと分かり、今後に向けて参考になったと思います。本当にありがとうございました。

それと、桑原委員から話がありましたが、府中町ではネウボラ事業と見守り支援事業を、広島県のモデル事業として現在行っております。結婚・出産・育児・子育て・教育と切れ目のない施策をするという、県の打ち出した、まだ成功するかどうか分からないような事業に手を挙げさせていただいております。これは、府中町が取り組む意気込みについて、広島県に評価いただき、指定していただいたという面もありますので、それにお応えできるようにしっかり頑張っていきたいと思っております。

それと、今の総合戦略について桑原委員から話がありましたが、尖っている、良く言えば非常に戦略性があるという総合戦略になっています。例えば一つだけ紹介させていただきますと、地価については策定の時に非常に議論がありました。町民の方へのアンケートを行いました、地価や家賃が高い、だから住みにくいという、マイナスの評価が多くありました。総合戦略を立てる時にそういうことを議論しましたが、ここにお金をかけることはできないので、これは良い意味として考えようということにしました。その他、お話がありましたように、団地での二極化についてですが、これは団地の公共交通をどのように具体的にするかということについて、ちょうど今、建設部長が協議会へ出席しているところです。そういった取り組みも次期総合戦略に入れられれば良いと思っています。

今日は楽しく意見を拝聴させていただきました。どうもありがとうございました。
ました。今後ともよろしくお願いいたします。

○座長（上之園委員）

それでは本日は大変お忙しい中皆様ご協力を頂きまして、ありがとうございました。
いました。以上をもちまして、本日の会議を閉会させていただきます。

皆さまありがとうございました。

（午後３時３５分閉会）